日本女子大学 社会連携教育センター JWU 子育てサイエンス・ラボ ニューズレター

JWU 子育てサイエンス・ラボ ゆりのき



No.29 2026 年 11 月 16 日発行

JWU 子育てサイエンス・ラボが発行するニューズレター「ゆりのき」は子育てにまつわる様々なトピックやお気軽に参加できる「子育てサイエンス・カフェ」のご案内を掲載しています。以前の「ゆりのき」も公式 HP で閲覧できます。

● TOPICS

● 教員インタビューリレー ● 第 29 回子育てサイエンス・カフェ開催レポート
● 第 30 回子育てサイエンス・カフェのお知らせ ● 地域連携事業 ● 学生企画

Interview 教員インタビュー リレー Vol. 9

様々な教員の研究内容や、JWU 子育てサイエンス・ラボでの活動をご紹介します。

Q.1 研究の内容とその研究をはじめたきっかけを教えてください。

専門は社会福祉学・地域福祉論です。特に、社会的孤立・孤独を抱える人が、地域の中でゆるやかにつながれる仕組みについて研究しています。地域福祉は、支援を必要とする人への支援だけでなく、地域住民自身がより良い地域をつくっていくことも大切です。私は、コミュニティカフェなどの居場所づくりや見守り活動に注目しています。研究のきっかけは、学部時代の下町地域でのフィールドワークです。特別養護老人ホームが地域の祭りの御神酒所となり、住民が日常的に施設へ出入りし、入所者と交流する姿に感銘を受けました。福祉施設が地域の居場所となる可能性を感じ、誰もが自然と人とつながれる地域のあり方を研究したいと考えるようになりました。



人間社会学部 社会福祉学科
教授 黒岩 亮子

「地域生活への移行」という福祉の大きな流れの中で、地域で孤立化している人の実態や政策、地域住民の活動等の支援のあり方について研究している。

Q.2 ご自身の研究を大学での教育活動にどのように反映していますか？

授業の中では、出来るだけ具体的な例やリアルな声を伝えるようにしています。また、市民向けの講座でワークショップなどを行うことが多いので、授業でも「これは実際に地域でやっています」と伝え、体験してもらうようにしています。体験という点ではフィールドワークも重視していて、授業やゼミで様々な現場を学生と一緒に訪れています。地域関係の希薄化といった課題をより深く理解し、その解決方法を考えるため、毎年ゼミの学生が地域住民を対象とした多世代交流イベント（クリスマス会）を企画・実施しています。

Q.3 実際の子育てや教育、社会の中で、研究成果がどのように活かされることを期待しますか。

社会福祉学は「実践の学」「解決の学」ですので、社会の中で活かされることを意識して研究を進めています。私はいくつかの自治体で、地域福祉計画などの策定にも携わっていますが、出来るだけ地域住民のリアルな声に耳を傾けたいと考えています。地域には子ども食堂や学習支援など多くの活動があり、私も実際に参加していますが、地域住民の熱意や工夫に学ばされることばかりです。そうしたリアルな現場から学んだことを研究に活かし、その研究を計画策定や市民向けの講座などを通して地域に還元する、といった循環が重要であると思っています。

Q.4 「子育て」に関わる方々へメッセージをお願いします。

地域に関わる研究をずっとしてきたので、子育てをする際には子育てサロンや多世代交流イベントにたくさん参加しよう！と考えていました。が、実際は自分の仕事の忙しさや、子どもの性格等もあり、思い描いていたような活動は出来ませんでした。でも、それも大事な経験だったと思います。子育てに正解はなく、自分の理想どおりにはいかないものですよね。そうした大変さもありますが、だからこそ子育ては狭い自分の世界の殻を破ることの出来る、とても貴重なものだと気づかされました。私の母は「子育てを通して人生 2 倍楽しめた」とよく言っていました。私もまだ子育ての途中ですが、これからも自分が思ってもみなかった世界！をうんと楽しみたいと思います！

Next 次回は家政学部家政経済学科 伊ヶ崎 大理 教授をご紹介します。

声かけが変わると子育てが変わる？ ”マザリーズ”の科学



小さな子どもに話しかけるとき、大人の声は自然と少し高くなり、ゆっくりとした話し方になり、抑揚も豊かになるといわれています。今回のカフェでは、乳幼児と大人とのコミュニケーションにみられる、この「マザリーズ」と呼ばれる独特の話し方を取り上げました。私は基礎生物学の分野で、動物の音声コミュニケーション（主な研究対象はセキセイインコ）について研究してきましたが、近年はマザリーズの研究にも取り組んでいます。当日は、研究者という立場から、子育てについて考えていることや、今後期待していることをお話ししました。



マザリーズ（対乳児発話）とは

乳幼児に対する独特の話し方は、母親だけでなく、父親や祖父母、保育者など、乳幼児に関わる多くの人にみられることが報告されています。そのため学術的には、マザリーズは「対乳児発話（infant-directed speech）」と呼ばれています。「対乳児発話」は少し堅い表現なので、本レポートでは、母親だけのものではないことを承知の上で、「マザリーズ」という言葉を用います。

これまでの心理学研究から、マザリーズには乳幼児の注意を引きつけたり、言葉の学習を助けたりする働きがあり、子どもの発達に重要な役割を果たしていることがわかっています。

対乳児発話と大人

子育ては私たち大人にとってかけがえのない経験である一方、日々のストレスや不安を伴うものでもあります。研究の中には、抑うつ傾向のある母親ではマザリーズが少なくなることや、オキシトシン濃度の高い母親ほどマザリーズが多いことを報告したものがあります。オキシトシンは、人とのつながりやストレスの軽減に関わるホルモンとして知られています。私は、子どもとのコミュニケーションや、大人同士の支え合いによってオキシトシンの働きが高まり、子育ての大変さを少しでも和らげることにつながるのではないかと考えています。

ヒト（*Homo sapiens*）の子育ての特徴

マザリーズは、言語や文化の異なるほぼすべての地域で観察されています。また、現在も狩猟採集生活を営む人々の間でも確認されています。ヒトも大型類人猿もヒト科に属しますが、オランウータン、ゴリラ、チンパンジーでは、ヒトのマザリーズに相当する行動は確認されていません。このことから、生物学的にみると、マザリーズはヒトの子育てを特徴づける行動の一つと考えられます。

さらに、生物学では「共同繁殖（communal breeding）」という概念があります。これは、親だけでなく、親以外の個体も子どもの世話を行う繁殖様式を指します。親や祖父母、地域の大人たちがそれぞれマザリーズを用いながら子どもに関わり、みんなで子どもを育てていくことは、ヒトらしい子育てのあり方を反映しているのかもしれません。



マザリーズをきっかけに、子育てがこれまで以上に楽しく、また地域の中で支え合えるものになることを願っています。

（理学部化学生命科学科　准教授　藤原　宏子）

【お知らせ】
第 30 回子育てサイエンス・カフェは
2027 年 1 月 23 日(土)開催！
詳しくは次のページをご覧ください！

次回の子育てサイエンス・カフェは！

親子のインタラクションと言語能力の発達

インタラクション：子どもをとりまくコミュニケーション

自動翻訳技術が発展しても、多くの親は、子どもに英語を話せるようになってほしいと考え、就学前から英語に触れる機会を与えています。
子どもの英語教育について考えるうえで大切なのは、子どもにとって母語を身につけること、そして外国語を学ぶことがどのような経験なのかを知ることです。
この講座では、親子のインタラクションを出発点として、子どもの言語能力の発達についてさまざまな考え方を紹介し、子どもの言語習得を楽しく促すアイディアを紹介します。

日本女子大学文学部英文学科 教授 早野 薫

会話分析の手法を用いて、会話の構造や、コンテクストと言語使用の関わりについて研究。英語学習場面や日常会話、制度的な場面における人々の相互行為を分析している。

日 時 2027年 1/23（土） 10:30～12:00

Zoom によるオンライン開催です。
ご自宅からお気軽にご参加ください。
※カメラの ON･OFF はご自由に設定ください。

QR コード または URL からお申込みください。
https://forms.cloud.microsoft/r/MAnw0XTMHz

申込み

お申込み受付後、Zoom 詳細情報をメールにてお送りいたします。

●どなたでもご参加いただけます　●参加費無料

地域連携事業

文京区立小学校･幼稚園との連携事業

文京区立関口台町小学校 出前授業

２年生の学年活動で、本学家政学部児童学科 杉山 哲司教授、家政学部被服学科 井上 咲子助教による出前授業「親子で楽しく体を動かそう！」を実施しました
片足立ちで靴下を履いたり、足の指で靴下をつまんで投げたり……
バランス感覚や足指の力を使った、さまざまな運動遊びに親子で楽しく挑戦しました！
どれも家庭で気軽にできる遊びばかり。今回の体験をきっかけに、ご家庭でも親子で楽しく体を動かす時間を過ごしていただけたらうれしいです。



文京区立幼稚園教育研究会 講演会

文京区立幼稚園教育研究会では、「子どもの豊かな遊びを育む～１歳児から５歳児までの発達を見通して～」をテーマに研究を進められています。
この研究会の第１部会「絵本・紙芝居」において、本学児童学科 今田由香准教授をお招きいただき、絵本と紙芝居の特性や、それぞれの楽しみ方についての講演を行いました。

今回の講演が、日々の保育の中で子どもたちの豊かな遊びを育むためのヒントとなれば幸いです。



学生企画

学生による 地域のお子さまに向けた社会貢献活動

本学の学生が、地域のお子さまに向けた季節を楽しんでいただける企画や、大学での学びを活かしたワークショップなど、様々な催しを企画しています。お近くにお住まいの方はぜひご参加ください！

12/12（土） わくわく！せかいのクリスマス



日時：12 月 12 日（土）第 1 部 13:00～14:00/第 2 部 15:00～16:00
（第 1 部・第 2 部の内容は同じです。）
会場：**大塚地域活動センター　オープンスペース**
文京区大塚 1-4-1（中央大学茗荷谷キャンパス内 2 階）

対象：3 歳～未就学児とその保護者
内容：クリスマスツリー製作・宝探し・エルフ探し・福笑い
定員：第 1 部、第 2 部それぞれ 20 名（定員に達し次第締切）
申込み・詳細：11/17（火）申込み開始

●参加無料
企画：家政学部児童学科　学生有志

12/19（土） 銭湯でクリスマス会



日時：12 月 19 日（土）第 1 部 10:00～11:00/第 2 部 12:00～13:00
（第 1 部・第 2 部の内容は同じです。）
会場：**大塚仲町 大黒湯**　文京区大塚 3-8-6

対象：3 歳～未就学児とその保護者
内容：クリスマスツリー製作・宝探し・福笑い
スーパーボールすくい等
定員：第 1 部、第 2 部それぞれ 20 名（定員に達し次第締切）
申込み・詳細：11/17（火）申込み開始

●参加無料
企画：家政学部児童学科　学生有志

開催しました！

はじめての服づくり夏休みワークショップ

夏休みも後半の 8 月 26 日（水）、本学被服学科の学生グループが、地域の小学 5・6 年生向けに服づくりワークショップを開催しました！はじめてミシンに触れる子も、学生の丁寧な指導で、自分だけの 1 着を完成させることができました。
ミシンの使い方だけでなく、ファッション業界における環境問題や労働問題についても小学生にもわかりやすく説明。ご参加の小学生も、主催の学生にとっても素敵な夏の思い出になったようです。



上記企画は、＜※社会連携活動支援助成＞を活用して実施されました。
※学生による社会連携活動を通した学びを応援し、より良い成果をあげていただくために、活動経費の一部を助成する制度